

# 気になる、

ミュージアム  
コレクションI



## こんどの収蔵品

Museum Collection I *Intriguing Additions to the Collection*

～ 作品がつれてきた物語 ～

2020 4.25 sat - 6.14 sun

会場 | 世田谷美術館 2階展示室

開館時間 | 10:00 - 18:00 (入場は17:30まで)

休館日 | 毎週月曜日 (ただし、祝・休日と重なった場合は開館、

翌平日休館) ※5月4日(月・祝)は開館、5月7日(木)は休館。

観覧料 | 一般200(160)円、大高生150(120)円、

65歳以上 / 中小生100(80)円

※( )内は20名以上の団体料金 ※障害者の方は100(80)円。

ただし、小・中・高・大学生の障害者は無料。介助者(当該障害者1名につき1名)は無料。

証明書をご提示のうえ、お申し出ください。\*小・中学生は土、日、祝・休日は無料

\*同時開催の企画展チケットで本展をご覧いただけます。

宮本三郎 国立競技場モザイク壁画《より速く》下絵部分 1964年頃

世田谷美術館 SETAGAYA ART MUSEUM

〒157-0075 東京都世田谷区砦公園1-2 TEL.03-3415-6011 (代表)

<https://www.setagayaartmuseum.or.jp/> 観覧会のご案内 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

8.16 sunまで!

会期を延長しました。

企画展「驚異の三人!!」は  
中止となりました。

ミュージアム  
コレクションI  
Museum Collection I  
Intriguing Additions  
to the Collection

# 気になる、 こんどの收藏品

～作品がつれてきた物語～



鈴木治《黒絵壺》制作年不詳

美術館のコレクションは、どのように作られるのでしょうか？ みなさまは、こういったイメージをお持ちですか？

美術館は作品や資料の保管・調査研究・展示を大きな柱としていますから、「どのような作品を収集するか」は、とても大事な仕事のひとつです。現在、世田谷美術館には、アンリ・ルソーをはじめとする素朴派や世田谷ゆかりの作品など、およそ16,000点のバラエティに富む作品が収蔵されています。

縁あって世田谷美術館に収蔵された作品は、美術館開設準備室当時までさかのぼれば、約38年間にわたる購入や寄贈によって集められたものです。それらの一つ一つには、作家の想いが込められているだけでなく、

当館に収蔵される前の旧蔵者の方々と作品との物語も寄り添っていると言えるでしょう。

たとえば、佐藤忠良のブロンズによる彫刻作品《ゆみ》の寄贈者は、若いころに佐藤家でお世話になり、そのときにモデルとなった女性の大切な思い出の作品でした。早くに父を亡くした彼女にとって、佐藤は父親のような存在だったそうです。

本展「気になる、こんどの收藏品」は、2013年8月から2014年1月にかけて開催した同タイトルの展覧会の続篇となります。あれから6年のあいだに収蔵された作品をご紹介します。ご来場の皆さまに、そと、それぞれの作品に寄り添うさまざまな物語をお伝えしたいと思っています。



佐藤忠良《ゆみ》1987年



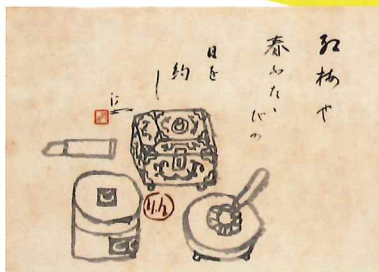
木内克《母子像》制作年不詳



花澤徳衛《すもう》1995年



中村哲《東京オリンピック》1964年



花森安治《不詳(紅梅や春ふたたびの日を約し)》1975-76年頃



高木茂子《支那服の娘》1934年



中川一政《向日葵》1980年

### 同時開催企画展

驚異の三人!!

高松次郎・若林奮・李禹煥

—版という場所で

2020年4月18日(土)ー6月7日(日)

### 交通案内

- 東急田園都市線「用賀」駅下車、北口から徒歩17分、もしくは美術館行バス(A)「美術館」下車徒歩3分
- 小田急線「成城学園前」駅下車、南口から渋谷駅行バス(B)「砧町」下車徒歩10分
- 小田急線「千歳船橋」駅から田園調布駅行バス(C)「美術館入口」下車徒歩5分
- 来館者専用駐車場(60台、無料)：東名高速道路高架下、厚木方面側道400m先。美術館まで徒歩5分。



世田谷美術館  
SETAGAYA ART MUSEUM

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2 TEL.03-3415-6011(代表)

<https://www.setagayaartmuseum.or.jp/> 展覧会のご案内 050-5541-8600(ハローダイヤル)